

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (沖縄)	◎	家電量販店（営業担当）	来客数の動き	・6月1日から沖縄県のおきなわ省エネ家電買換応援キャンペーンが始まり、省エネ家電には県がキャッシュレスポイントや商品券を付与している。キャンペーンの対象となっている冷蔵庫、エアコンを目的とした来客が大幅に増加している。また、梅雨明けでエアコンの販売が伸びている。
	◎	観光型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・ホテルの3月の販売室数が前年比14%減少なのに対し、6月は前年比33%増加と、プラスに転じている。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・人の動きが良くなっている。前年と比較して来客数が増加している。
	○	コンビニ（経営企画担当）	お客様の様子	・4月から雨の多い日が長らく続いたことにより、県内の人流は鈍く、特に行楽客が伸びていない。しかし、天候の回復に伴い、人流が活発になっていることが顕著に表れている。
	○	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・6月後半の梅雨明けから来客数が増加している。夏本番ということと、夏休み前にホテルや飛行機の値段が上がる前に遊びに来たという観光客の声も多く聞かれる。
	○	乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・平日の新規来店が増えており同時に成約台数も増えている。
	○	旅行代理店（マネージャー）	お客様の様子	・企業の出張や職場の慰安旅行の問合せもかなり増加している。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・飲食店関係は、僅かながら良いようだが、物販商品販売の方が余り芳しくない状態である。トータルでは良いところもあり、悪いところもあるが、平均すると厳しい状況の方が多いとみられる。
	□	一般小売店〔酒〕（店長）	販売量の動き	・物価上昇により、旅行や外食など控えていて、外食産業も値上げで客が減少している。
	□	百貨店（経営担当）	来客数の動き	・お中元期に入り来客数は増加傾向も、梅雨時期の大雨に伴う避難指示などの影響もあったため、全体の来店客の動きは変わらない状況である。
	□	乗用車販売店（経理担当）	来客数の動き	・来客数にほとんど変化はない。
	□	観光型ホテル（代表取締役）	来客数の動き	・宿泊部門は利用者数があまり変わらない。飲食宴会部門は、総会などの会議利用があり、若干増加している。
	□	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・前月まで好調だった販売が今月はほぼ前年並みという結果となっている。販売数だけでなく客足が鈍くなっている。
	□	住宅販売会社（役員）	販売量の動き	・立地条件にもよるが高価格帯のマンションや戸建て住宅の販売が弱含みである。
	▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・今月の来客数をみると、前年を下回っている。今月は、前年よりも雨の日が多く、天候の影響もあり苦戦している。
	▲	コンビニ（副店長）	来客数の動き	・例年6月は梅雨もあり客足は見込めない時期である。実際、連日の警報級の大雨の影響で来客数は減少している。立地面で免税により、ある程度の売上は確保できたものの厳しい状況である。
	▲	その他専門店〔陶器〕（製造）	販売量の動き	・ゴールデンウィークが終わって観光客が減少したため、販売先が仕入れを調整している。ただし、短い期間の対応だともみている。
×	一般レストラン（代表者）	来客数の動き	・梅雨と選挙で来客数が非常に減少している。	
×	その他飲食店〔バー〕（経営者）	来客数の動き	・月の前半は梅雨の影響などもあったとみられるが、月の後半に梅雨明けしてから人出は良くなる雰囲気はない。観光客は多いが地元の人の動きは悪くなっている。	
企業 動向 関連  (沖縄)	◎	－	－	－
	○	*	*	*
	□	輸送業（経営企画室）	それ以外	・特段状況に変化はない。

IT/電/	□	会計事務所（所長）	それ以外	・人口の流動化による経済活動は活発であるが、物価上昇などもあり、好況感はない。
	▲	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・今回の梅雨は記録的な大雨が続いた。その影響でバーベキュー食材は伸びなかったが、ホテルを含めた飲食関連の食材の売上は好調である。一方で前年のブームのときに比べ、沖縄そば等食品関連の土産売上は減少し不調が続いている。
	▲	窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・見積依頼は3か月前と比較すると、公共、民間とも大きな変化はなく横ばいの状況であるが、受注は大幅に減少している。
	×	—	—	—
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	*	*	*
(沖縄)	□	人材派遣会社（総務担当）	求人数の動き	・求人の問合せは多いが、受注にはつながらない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・観光シーズンを前に例年求人数が増加する時期だが、求人数の前年同月比が減少している。また、企業からも景気がプラスになるような声も聞こえない。ダブルワークを希望する高齢求職者も増加している状況から、景気は3か月前から変わらないとみられる。
	□	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・2025年卒向けIT関連企業の求人数はかなり減少してきたが、それ以外の求人数はまだまだ継続している。また、今まで学内説明会の参加希望がない県内企業からも説明会参加の依頼を受けることが多くなり、募集に苦労している様子がうかがえる。
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	それ以外	・電気代、物価の高騰など、基本的には消費は節約と共に抑え気味である。定額減税などの一時的な措置によって購買意欲が高まるのかどうかまだ分からない状況である。
	▲	求人情報誌製作会社（営業）	求人数の動き	・例年どおりの動きではあるが、夏場を前に求人数は徐々に減少している。そのなかでも派遣業の求人数はやや増加している。
	×	—	—	—